

# そうだったんだ消防団！

地域防災の要として活躍している消防団。実際にどのような活動をしているのか、どのような思いで活動しているのかに迫りました。



## そもそも消防団って？

消防団は消防組織法に基づいて、各市町村に設置されている消防機関です。平成26年4月現在、宮崎市消防団には2571人の消防団員が在籍。そのほとんどが、仕事と消防団活動を両立させています。その職種は、会社員、自営業、看護師、保育士、学校の先生、公務員などさまざま。仕事に、家庭に忙しい中、「自分たちのまちは、自分たちが守る」という使命感で活動しています。

務して消火活動などを行う消防士。40万人を超える市民が暮らし、面積も広大な宮崎市で、現在、火災などの災害現場で常時活動できる消防職員は約90人です。

同時にたくさんの方の災害が発生した場合、消防士と消防団員が連携して活動しなければ、被害の拡大を抑えることはできません。また、消防署や出張所からの距離が遠いなどの理由で、消防士の到着に時間がかかることもあります。消防団員は地域に密着した安全の担い手であり、消防署と消防団が一体となつて、車の両輪のように機能して大きな力を発揮しています。

市民の安全・安心を守るために必要不可欠な存在。それが消防団なのです。

## 消防士と消防団員

仕事の傍らで消防活動を行う消防団員に対して、消防署に勤

務している消防士は、消防署に勤務し、消防活動を行う。消防団員は、地域に密着した安全の担い手であり、消防署と消防団が一体となつて、車の両輪のように機能して大きな力を発揮しています。

## 「団長に聞く!!!」 災害時に発揮される 消防団の力

地域の安全・安心の要といわれる消防団。その理由を、宮崎市消防団の高橋昌久団長に伺いました。



宮崎市消防団  
高橋 昌久団長

昭和29年12月23日生まれ。平成26年4月に宮崎市消防団の団長に就任。保育園の園長もされています

### 地域密着の強み

まず火災について話をしますと、消防署から離れた地域では、消防団が最初に火災現場に到着することが多いんです。火災を初期段階で収めるには、この対応の早さが重要で、地域密着の消防団だからこそ素早く現場に駆けつけられます。

市内各地に大きな被害をもたらした平成17年の台風14号でも、地域と密接に関わっている消防団の強みが発揮されました。水害が発生した地域では、ゴムボートなどによる救助活動を行いました。高年齢者が住んでいる、この家には赤ちゃんがいるなど、地域住民のことを

把握していたので、効率的に救助活動を行うことができました。結果として、一人の死者も出さず、一人の被害もありませんでした。

### 原動力は、地域を守るという使命感

同じく台風14号の時のことですが、大淀川の堤防が越水する危険があるということで、200人以上の消防団員が危険箇所を集まって6800袋の土のうを積みました。

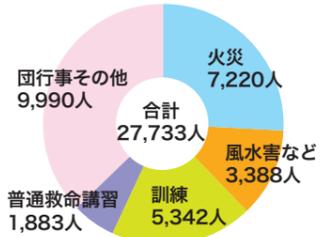
さらに、激しい風雨の中、地域を巡回して、がけ崩れなどの危険箇所がないかを確認したり、倒木を撤去したりと、活動を続けたのです。このように、自分の身

を守るために住民が屋内にいなければならぬ、もしくは避難しなくてはならない、というような状況の中でも、消防団員は災害が起きようとしている場所に駆けつけたり、自分たちの家族よりも優先したりして地域の安全のための活動を行っています。これも「地域を守る」という使命感があればこそです。

消防団員は、「地域のために」という思いで、日々訓練に励んでいます。まさかのとときの地域の安全・安心は、消防団によって守られている、と思ってもらえるとうれしいです。

### 消防団員の出動人数

[平成24年度の延べ人数]



平成17年の台風14号では、消防団が危険箇所でも活躍しました



深夜であろうと早朝であろうと、連絡があれば現場に駆け付けます

## 消防団員インタビュー



### 会社員でもできるんです

宮崎市消防団  
大淀分団第6部  
黒木 晃さん  
[消防団歴12年]

宮崎市内の税理士事務所に勤務する黒木さんは、消防団員だった父親が、定年により退団したのを機に入団。ラッパ隊にも入隊するなど積極的に活動しています。

「消防団に入って良かったと思うのは、たくさんの人と知り合えたこと。さまざまな職種の人たちと話ができますし、地元の人たちとのつながりも増えました。

変な話ですが、消防団に入っていなければ、今の地域に住み続けていなかったかもしれません。消防団に入って、それだけ自分の地域に愛着を持つようになったんですよ。

私は会社員なので、日中はなかなか自由がないのですが、自分にできる範囲で消防団活動をしています。地域への思いがあればどなたでもできることだと思いますので、皆さんもぜひ消防団に入ってくださいませね。」



### 自分の町を自分で守ることにやりがいを感じています

宮崎市消防団  
中央分団第2部  
毛利 伸二郎さん  
[消防団歴19年]

毛利さんが消防団に入団したのは平成7年。当時23歳だった毛利さんは、阪神・淡路大震災の被害をテレビで見ると衝撃を受け、消防団への関心が高まったそうです。「高速道路が倒れている様子は大きなインパクトがありました。入団したのはその4月です。万一に備えて自分にもできることをやろうと考えて決めました」。

毛利さんは焼肉店で仕事をしている関係で夜は活動できないため、昼間の活動に参加しています。「うちの分団は繁華街と昔ながらの下町が残る地域を担当しています。20代から60代までと世代が幅広いのですが、家族同士で集まって焼肉会をするなどしてとても仲が良いですよ。自分の町を自分で守れるというのが何よりのやりがい。これからもみんなで町を守っていききたいと思います」。

## 消防団の活動あれこれ

### 防災啓発活動

地域住民の防災意識や地域防災力の向上を目的に火災予防・防災講座などの啓発を行っています。

災害を未然に防ぐのも大切な役割です



### 住宅防火訪問

各家庭を訪問し、火の元を確認したり、防火啓発を行ったりしています。同時に支援が必要な人の把握もしています。

地域の特性を知ること、いざという時に力を発揮できます



### 平常時



### 救命講習会

住民がいざという時に対応できるよう、AEDの使い方など、応急手当の普及・啓発を実施します。

早期の救命措置が命を救います



### 消火活動

いち早く火災現場に駆けつけ、消火活動を行います。鎮火後も再び発火しないように見張りを続けます。

夜を徹して見張りを続けることもあります



### 水防活動

台風や集中豪雨によって河川の氾濫や堤防の越水が起きないように、土のう積みなどの防災活動を行います。

地域の災害軽減に全力を尽くします



### 災害時

### 救助活動

地震や水害など大規模災害発生時に、救助・救出・警戒・避難誘導などを行います。不明者の捜索活動も行っています。

地域のことを知っているため、迅速な活動が行えます

